

能美市産農産物を活用した加工品（国造ゆずを使った飲み物）
～能美市の魅力を国造ゆずを通してPR～

指導教員 金城大学短期大学部 ビジネス実務学科 准教授 越野裕美子
参加学生 西村祐香・松島梨紗・南千里

1. 活動の成果要約

初めのころは国造ゆずの黒点は見た目が悪く商品価値が下がってしまうため弱点になるが、無農薬だからこそできた傷であり強みにもなるということを前面に押し出して周知活動をしようとしていた。しかし「無農薬有機栽培」こそが国造ゆずの一番の魅力であり付加価値であるということがわかり、他のゆずと差別化して国造ゆずをPRすることが出来た。

2. 活動の目的

石川県は食べ物がおいしいこと、伝統的な文化を大切にすることが魅力である。そのため、たくさんの魅力が詰まっている石川県能美市の食文化について学びながら、その食文化を多くの人に発信し、残していきたいと考えた。

能美市の農業特産物である「国造ゆず」の付加価値を見出し、その付加価値を他のものと差別化しPRすることによって「国造ゆず」の周知を広め、能美市の活性化につなげる。

3. 活動の内容

1 ゆず農家を訪問 日付：7月24日（水）

実際に国造ゆずを生産している農家さんにお会いしインタビューを行い、国造ゆず農家さんの現状、苦勞などを調査。



図1 インタビュー調査



図2 ゆずの鋭いトゲ



図3 約700本の柚子畑

2 『やまぎし養蜂場』での販売イベント 日付：11月3日（日）

国造ゆずの販売・試食を行い実際に食べてもらうことで国造ゆずの魅力を知ってもらう。



図4 国造ゆずの販売・試食



図5 左が種無し“多田錦”、右は“木頭”

3 『国造ゆず祭り』での販売イベント 日付：11月9、10日（土、日）

能美市内外に広く知られたイベントに参加し販売のお手伝い、ポスターを利用した国造ゆずのPR。



図6 井出能美市長、塚田組合長をはじめとする能美市の皆さんと



図7 ゆるキャラ「ゆず美ん」と

4 「国造ゆず」収穫体験 日付：11月18日（月）

実際に収穫のお手伝いをする事で収穫の大変さを実感した。



図8 収穫のお手伝い

5 金沢駅でのゆず茶の試飲提供 日付：11月24日（日）

観光客や生産地域以外の方に国造ゆずをPRするため金沢駅で着物を着てゆず茶の試飲を提供。



図9 ゆず茶の試飲



6 いしかわ動物園でのゆず茶、ゆず入りみそ汁の振る舞い。

日付：12月22日（日）

国造ゆずを全く知らない人に国造ゆずをPR。



図10 ゆず茶、ゆず入りみそ汁振る舞い



図11 カピバラゆず湯

4. 活動の成果

研究を始めたころは「国造ゆず」の黒点は弱点であるが、無農薬だからこそできた傷であって強みにもなるということを前面に押し出して周知活動を行おうとしたが、「無農薬有機栽培」そのものが「国造ゆず」の付加価値となることに気づき、そのことを意識して活動を行った。試飲や振る舞いで配った数は合わせて 300 なので合計で 300 人以上の人に国造ゆずを知ってもらうことが出来た。活動の中で市の広報や活性化に携わる方々と会うことができ、PR の仕方などを学ぶことができた。また、PR 活動の難しさを知ると同時に私たちが伝えたかった事、知ってほしいことを理解し、共感してもらえた時の喜びを知ることができた。

5. 次年度の計画

活動の反省点として、これまでイベントの参加やゆず茶の試飲、みそ汁の振る舞いなど様々な広報活動を行ってきたが、その活動によってどれだけ効果があったかを実感するための検証が十分ではなかった。そのため、周知度を知るためのアンケートをとる、国造ゆずを食べた人に感想を聞くという改善策が考えられた。次年度の活動を行う予定はないが、今回の活動の経験を今後活かしていきたい。

6. 活動に対する地域からの評価

この活動に対して能美市からは「金城大学短期大学部の学生に関わっていただき、国造ゆず祭り出展や国造ゆず収穫体験、加工品のゆず茶を使用した取り組みを通して、高齢農家に元気とやる気を与えてくれましたことが、地域にとって一番の成果だったと思います。」とのコメントをいただいた。